いわき民報
発行所　平市田町48　電話381　176　1222
社長　登原　編集兼発行人　田原　印刷人
第一級酒　稲萬歳　造酒家　古川本店　植田町

笑いと喜びの花園に
子供樂團車も練り廻る
多彩に兒童福祉週間行事

平市では來月五日の子供の日を中心にして行う兒童福祉週間の行事を次の如く決定、この一週間は笑いと喜びの花園にしようと計畫している

△五日―各戸洩れなく國旗掲揚、各家庭に呼掛け家庭子供祭を行うほか市では樂團や紙芝居の小父さんを乘せたトラックを繰出し午前九時公會堂前を出發、平窪―市内―飯野の順で巡回子供祭を行い『子供祭の旗』を子供たちへ贈る、また當日は市内各小中學校でも小運動會や小遠足、各保育所では子供祭を行う、▽六日―去る三月に行った優良乳兒の表彰を午前十時より市社會課で五名の赤ちゃんに市長賞を贈る△七日―午前九時、午後一時、同六時の三回に分け公會堂日本間に市主催の兒童福祉法記念演藝大會を開く、入場料四円九十九錢はそのままそっくり貧困兒童へ贈る、プログラムは唱歌風の子（三小）ピノチオ（一中）森の水車（二中）演劇ダービー万才（二、三中）山寺の和尚さん（二、三中）コックの王様（磐女）舞踊天上の宴（一中）

△八日―各保育所は小遠足

△九日―縣が貧困兒童を對象に行う兒童贈物運動に市でも協力これを取纒める△十日―各學校では兒童班子供クラブ等の活動を促進する▽十一日―市と學校が協力し長期缺席兒童並に不就學兒童の實態調査及び救濟

△十二日―午後一時より公會堂日本間に各子寶家庭のお母さん達に參集を求め子育て苦心座談會△十六日―市では縣主催の母を讃える童謠を學校では母を讃える綴方の懸賞應募をメ切る各保育所では母親感謝藝能祭

神谷の合併問題再燃

組が絶對多數だがここで一氣に合併に持って行くことは波瀾を再び呼ぶことになるので一カ月位靜觀したのちに合併を斷行したいと考えている最近は村會の大半が合併の贊成に傾いている

村會協議會

神谷村では二十七日午後一時から急施村會議員協議會を開き、出席議員十五名で先ず第二中數地買收に基く村有林二町歩の拂下げ分割に就き協議の後、鎌田部落二百二十戸の離村による合併請願書に對し鈴木新平議員から村當局の回答を求めたが神谷村長は「廿七日午後五時から市營球場で開き十八對零で通運勝つ一部落の單獨による合併はこの問題に油を注ぐ結果になる合併は時間の問題だから一カ月位まってもらいたい」と回答その他意見の交換あり閉會

新星藥のスト解決
勞資の間に美わしい協調

この爭議で勞組側は『スに入る前勞働委員會に提訴し平和的解決を圖る』と云う勞働第十六條を無視して一方的にストを行った點を會社側に陳謝し、現在の實働七時間半制を三十分延長八時間制とすることを自發的に提言、會社側に協力して能率向上を申合せるなど勞資の間に美わしい好結果をもたらした

氷値上げ
一日から實施

平製氷商業協組では二十七日午後一時より本社ホールに役員會を開き氷價改正について協議左記の通り決定した

△店頭賣價格一貫匁に付十五円△配達料同一円五十錢

なお今回の値上は生産原價中に入る副資材其他の騰貴によるもので五月一日より實施になる

和田博士講演や演劇も開催
あす櫻丘會總會

二十九日午前十時より午後三時まで婦女講堂に於て本年度の櫻丘會總會が開催されるが當日は厚生省榮養研究所に二十年も研究を續けている

作業量引上げ通告
隅田川勞組側は反對意向

好間村隅田川炭鑛（經營者松本榮一氏）では二十四日組合（組合長松本秀男氏）側に對し現在の標準作業量の四割乃至五割（各職種により異なる）の引上げを通告した、この要求によると請負採炭夫は平均賃金百五十円の値下げとなるので二十六日坑内夫は休業飽く迄反對だと三十日臨時組合大會を開き、對策を協議するが、會社側の請負炭價を決定するこの基準作業量のひき上げは實質賃金の低下を計るものだとして、現在の平均賃金坑内夫三百六十三円、坑外夫二百十六円をそれぞれ、坑外二百六十円坑内四百四十五円の値上げ要求を準備同大會に諮ることになった

同炭鑛は月産三千五百屯、五千四百カロリー平均で粉炭六塊炭四の割合で從業員は四百名の中堅炭鑛である

譲住宅
八疊一、六疊一、四疊半一、二疊一、玄關湯殿合所付
平市小太郎町電話二一五〇番
長島菊苗

4月30日（日）
6時―9時30分
ダンスパーティ
横濱演藝團　白樺會　熱海消防第三分團
平市六丁目　樂園
巴里ダンス教授所

盗難ひんぴん

△植田町大字根小屋六三石屋業馬上賈次（四七）さん方に二十一日午後十二時頃賊が侵入衣類七點四千円を盗んで裏戸から逃走した

▲警察村大字藤原字六石一二病院小使下川金太郎（四七）は二十六日午前二時頃同村大字白鳥字鹽打農業川崎清さん方で藤原川に浸して置いた種子もみ約一斗七升を盗んだことが判明二十七日平地區署へ

△平市綱官町五三猪狩四郎專用線事務所では二十七日午後五時から翌朝にかけ精米九升洋服生地三ヤール等千八百円相當ぬすまれた

天気予報
廿八日
【今晩】北寄りの風弱く漸くもりの天氣でしょう
【明日】朝の内北寄りの風日中は南寄りの風湖日模様の天氣でしょう
【明後日】天氣は下り坂に向いましょう、海上は多少波立ちますが大したことはないでせう

福一萬虚空藏樣
あす御開帳
大祭で賑う

神谷村の福一万虚空藏菩薩（二十二年目振りの御開帳は愈々明日十九日午後四時頃と決まり二十八日早朝から宵祭りで打上花火が初夏の碧空にこだまして大祭氣分は漸が上にもあがり信者が續々と詰めかけて居る

神谷と合併は時間の問題
神谷村長語る

右について神谷村長は次の如く語る

合併は時間の問題である、村會は十二日四で合併賛成

澤村神社の建碑除幕式
一日に擧行

草野村澤村神社では一日午前九時より記念碑の除幕式、同十時より例祭を執行する、また今年は江筋開さく計畫成つて三百年に當るので同村喜年による澤村公一代記の演劇余興も行う

貨車止め解決
小名濱港十二日振りで

小名濱港埠頭に對する貨車止めの暫定的妥協案が成立、港灣會社側もこれを承認したので港務所でも即日貨車止めを解除二十八日から貨車が入ったが、會社側は經營面のバランスを圖るため、六月一日より平均一割の賃上げを通告、勞組側は二十六、七兩日に亘って會社案を檢討した結果『止むを得ぬもの』と認めて會社案を呑むことになり、二十七日円滿に解決した

暫定的取極め
海運局で語る

調停に入った東北海運局小名濱支局では次の如く語る

港の實情に照し暫定的處置として一應妥協案を作りこれによって解決させたがこれは飽迄暫定的なものである港務所が今度行った處置については私共もよく研究したいと思っている

縣營指定の意向
競輪場下檢分終る

平市土木委員ら一行の競輪場敷地の下檢分は二十七日午後から假野谷川畑、九品寺前、中堀地内夏井川堤川等の候補地を視察したが谷川畑と九品寺前が有望だとの折紙がつけられた、ただ地元との折衝があるため敷地決定については嚴秘に附しまた他町村でも最近競輪場熱が高まって來たので急速にこれを推進することにし會津競輪場の向うを張って縣營競輪場としての指定を受けるため近くこれが運動にとりかかる

配給米の食用油

平市商工課では五月一日から四日間一般家庭に對して食用油（液体油）を配給、一人當り七〇グラム（五十一円三十五錢）

平理科教育研究會組織
一日發會式

教師の科學的教養を向上するため平市内の小中學校の理科教育に熱心な人々は去る二十五日一中に集り協議の結果、理科教育研究會を組織することになり來る一日發會式を擧行する

靴廿三足盗まる

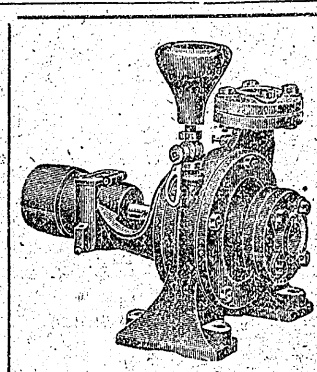
二十七日夜十一時から翌朝五時ころまでにかけ平市田町ス一ガタ靴店菅田甫さんに賊忍入り新品男物短靴外二十二點の皮靴五万七千円相當をぬすまれた

江名中學の建設地
調停で館地内に決る

江名町の中學校建設敷地の決定について停調役を買った石城地方事務所芳賀次長は二十七日午後五時より役場に木村教育委員長、石原教育委員らも出席して調停した結果、大字永崎字館地内に六千坪の敷地を求めて建設することにし若しこれが不可能の場合は大字江名字天カ崎にすることを條件として決めた、豫算は二カ年計畫として既に千三百万円を町會で議決している

電話番號變りました
（新）九九〇番
（旧）一七六番
平市田町
ブラジル

氷價改正に付御願い
今般協議の結果左記の通り協定致しましたから何卒御諒承下さい
價
一、店頭賣價格　壹貫匁ニ付　金拾五圓也
配達の場合は壹貫匁に付　一圓五十錢づゝ
申受けます
右五月一日より實施致します
平製氷商業協同組合



ポンプ　4吋ヨリ　3　4吋マデ在庫
平市四丁目マルトモビル
佐藤鐵工所販賣部　電731

なつかしい
風味　やぶそば
江戸前
立喰　まつし
ちらしすし
出前迅速
新扇屋
平市中央通り　電886

化粧品祭一等より四等までの
抽籤會は
四月三十日午前九時より
平市　世界館で行います
★五等當籤を除いた福引券番號のうちより
一等　參萬圓　一本
二等　茶簞笥ほか　三本
三等　鏡台ほか　五本
四等　電氣スタンドほか　十本
を抽籤しその場で賞品を贈呈いたします
★五等當籤（末尾一一）の方は二十九日までに世界館窓口で無料入場券とお引換願います
★四月三十日は五等當籤券では入場出來ません
★一般の方も入場出來ますから多數御來場下さい
平小間物化粧品組合

【にくまれぐち】

市廳舍と軍艦

葛城　淳

近來平市郊外の發展には誠に目覺しいものがある、アメリカン・スタイル（但し遠景）の明るい石炭關係の建造物美しい色調をかもしているカトリック教會堂、偉大な市廳舍、昔日の面影を一變した古川の改修等々正に一驚すべきものがある、併し何と云ても市廳舍は偉觀である、正確に云えば、人口僅か四万足らずの當市に於ては正に偉觀である

昨年秋の工事中には屢々散歩の途上見て相當なものであるとは知っていたが、曾く平を離れていて、先日久し振りに郊外に出て見た時には一驚した、まさか之程のものが出來ようとは夢にも思わなかった、建造の偉大な事もさる事ながら、玄關左右の數多の植込みは更に外觀を美化している、併し外から眺め內より建物の各所を見て廻っている中に種々考えさせられる處があった

先ず第一に誰でも考える事は總計二千二百五十萬と云われる建築費である、平市現在の人口は約三万八千五百と云う事から市民一人當りの負擔は五百九十五円となる、現在の五百円位と云われればそれまでだが、兎に角この時代に之だけの負擔を特別市民に掛けたならば問題ではないから實に驚くべき巨額である、所が國民の犧牲に於て建造され且つ身は清貧に甘んじながら世界に誇った之ら數多くの軍艦も、最も個人の生活を尊重し且徹底した現實主義者であるフランス人に云わせると『日本人は一日一フランのミゼラブルな生活に甘んじながら軍艦長門を持っている』と嘲笑した（桑原武夫『フランス的と云うこと』）そうであり、その分不相應を笑われただけなのであり結局一度殘らず太平洋に沈めてしまった